

“超”を目指す軸受技術研究会報告

“超”を目指す軸受技術研究会(第3種, 主査 森 淳暢): 本研究会は, 軸受技術の基礎研究や応用・開発に携わっている者, 気軽になんとか参加してみたい者が集っているいろいろな意味での“超”を議論し, 情報を交換する場として運営されている. 本年度は, 委員数 24 名, 平均出席者数は 20 名程度で, 関西大学を開催場所とし, 3 回の研究会を開催した. 研究会での講演タイトルは以下のとおりである.

第 22 回研究会 (平成 19 年 6 月 16 日 於: 関西大学) ①レーザーสキャナ用動圧空気軸受に関する研究—傾斜溝軸受および三本溝ヘリングボーン軸受— (東京理科大 春山朋彦, 吉本成香, 宮武正明, 日本電産コパル電子 高橋 明義), ②環境に優しい DLC コーティングの現状と今後の動向 (日本アイ・ティ・エフ 中東孝浩), ③フリクションプレートの係合過程のシミュレーション解析 (大阪電通大 矢部寛, 本田技研 高橋 篤, 熊谷 頼範).

第 23 回研究会 (平成 19 年 10 月 6 日 於: 関西大学) ①小型玉軸受の電食に関する基礎研究 (東京理科大 野口 昭治, 赤松 洋孝), ②静圧気体スラスト軸受の負圧を利用した物体の非接触懸垂支持と搬送 (福井工業大 小沢 康美), ③空調用コンプレッサの高性能化に伴う潤滑解析技術の発展 (東芝 服部 仁志, 伊藤 安孝).

第 24 回研究会 (平成 19 年 12 月 22 日 於: 関西大学) ①固体 NMR 装置のトライボロジー (日本電子 遠藤由宇生, 樋岡克哉), ②自動車用軸受の白層はく離とグリースの影響 (日本グリース 小宮広志), ③小型機器用流体軸受テーパシールにおける油漏れ発生メカニズムの検討 (同志社大 菱田典明, 平山朋子, 松岡敬, 大阪電通大 矢部寛).

研究会終了後には, 話題提供者を囲んで簡単な懇親会を設けることが慣例となっており, 毎度, ざくばらんな意見交換がなされている. 次年度も軸受技術に関わる話題を基とし, 年 3~4 回の研究会の開催を予定している.

URL: <http://www.maizuru-ct.ac.jp/control/noma/trib/tribology.html>